

住家被害認定調査（木造）に係る部位別の判定について

1. 外壁、屋根

- (1) 令和3年度: ① 損傷程度ごとのタグ付けモデルの作成
 ② 損傷程度ごとのタグ付けモデルのAI学習
 ③ プロトタイプによる実証実験

番号	手順	運用		調査員をサポートする内容 ＜別紙1参照＞
		調査員	AI等技術	
1	・調査票を準備	○		
2	・損傷個所ごとの写真撮影	○		
3	・損傷個所ごとに、損傷程度（程度Ⅰ～Ⅴ）を自動判定 ※ 内閣府が定める「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」による		○	・損傷個所を赤枠表示（損傷個所の誤撮影の防止） ・損傷程度の損傷例示を表示
4	・住家全体を写真撮影	○		
5	・住家外壁（又は屋根）全体に「面積率算出補助線」を挿入	○	○	・各損傷程度の面積割合の目安として使用
6	・損傷程度ごとに、全体面積に占める面積率を判定	○		
7	・調査票に損害割合を記入	○		

2. 基礎

- (1) 令和3年度: ① 損傷個所（ひび割れ）の自動検出の実証実験

番号	手順	運用		調査員をサポートする内容 ＜別紙2参照＞
		調査員	AI等技術	
1	・調査票を準備	○		
2	・住家の外周基礎長の把握	○		
3	・基礎の写真撮影	○		
4	・ひび割れ箇所の自動検出		○	・ひび割れ個所を赤枠表示
5	・ひび割れ等の損傷個所から損傷基礎長を算出 ※ 内閣府が定める「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」による	○	○	・算出式の表示
6	・外周基礎長と損傷基礎長から損傷率を算出	○	○	・算出式の表示
7	・調査票に損害割合を記入	○		